

フィールドを生きる
“Truth be in the field”の精神
“Truth be in the field”: Learning from
South African anthropology

海野 るみ(明治学院大学社会学部非常勤講師)
ruminomich@nifty.com

東京外国語大学AA研共同研究
「社会開発分野におけるフィールドワークの技術的融合を目指して」研究会
2012年2月12日 於・東京外国語大学本郷サテライト

日常生活を生きることとフィールドを生きることのあいだ、あるいは曖昧さについて

- 日常生活を生きることばにしてみる
 - 否定の無い日常
 - 「過剰な」日常 (小田)
 - 構築される日常
- 日常生活を生きることそのままフィールドワークにしてみる
 - 「アンビリーバボーな美の創造／想像—誰がコイサンのお尻を美しいと言ったのか？」 (2008年)
 - 「『学校がコワイ』—ある『不登校』の事例にみる『子どもの情景』」 (2010年)
 - “Doing Fieldwork Within: My child or a subject? Mother or an anthropologist?” (2010年)

関係性のなかに位置づける

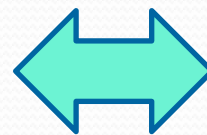
- モノや人との関係の存在を前提
- 関係の構築プロセスとしての日常

↑南アフリカの人類学との邂逅から

“Truth be in the field”

フィールド＝日常を生きながら「仕事」する人たち

- 南アフリカの人類学・者の葛藤
 - “アパルトヘイト世代”（±40歳代以上）
 - アパルトヘイトの日常を生きた人たち
 - アパルトヘイトの日常でフィールドワークした人たち
 - “アパルトヘイト世代”の葛藤
 - アパルトヘイト時代の教育状況：高校までと大学から
 - 人類学の展開：Marxism, revisionism, feminism
 - 人類学の立ち位置：vs Volkskunde
 - 人類学者の立ち位置：研究者×生活者
 - ポスト・アパルトヘイト時代の人類学と葛藤
 - 文化人類学⇒vs社会人類学
 - 脱構築
 - 人類学の社会的活用



“Truth be in the field”

“Truth” be in your everyday living?

- 南アフリカを生きることから学んだ（と思える）こと
 - 異なる眼から見えるものを面白がる
 - 何が見えるのか：同じ対象を捉える
 - どうすればそう見えるのか：視点、観点、解釈、論理
 - 異なることを許容して面白がる
 - 自分も異なるもののひとつに過ぎないことへの気づき
 - 他者の眼に見える自己～関係性のなかの自己の相対化

⇒人類学的視点との相似、実感・体験

- 説明可能性としての人類学
 - ～日常の説明・解釈・論理化の用具としての人類学

日常を人類学する～唯、日々を暮らす～

- 外国人学生と向き合う
- 他の教職員とともに働く
- 色々な学校で働く
- 子どもの不登校の状況と向き合う
- 研究者たちと向き合う
- フィールドの人たちと向き合う

繁雑・煩雑にみえる日常（と関係性）をどう生き抜くか？

etc....



- ひとつながりの時間のなかでの多様性、変化を生き抜く
- 「関係性の束」（小田）を結び替えながら生き抜く
- 丁寧に、面白がって異なる眼と向き合う

⇒書く～説明可能性の追究

参照資料

Hugo, Pierre. ed.

1990 *Truth Be in the Field: Social science research in southern Africa*. UNISA, Pretoria.

Kuper, Adam.

1987 *South Africa and the Anthropologist*. Routledge & Kegan Paul, London and New York.

小田 亮

2002 『創発的連帯と構築された外部』 <http://www2.ttcn.ne.jp/~oda.makoto/souhatsutekirentai.html> (2008年11月30日閲覧)

2006 「日常性という視点とボランティア批判」 日本文化人類学会大41回研究大会分科会「日常性概念の再考」(代表:浮ヶ谷幸代) 報告原稿。

海野 るみ

2008 「アンビリーバボーな美の創造／想像—誰がコイサンのお尻を美しいと言ったのか？」シンポジウム「ポップアフリカ アフリカの今にノル?—ポピュラーカルチャー研究への招待—」、於・国士舘大学。

2008 「関係の構築と複数性、重層性」(pp.7-10)「営まれる歴史」(pp.34-40)『歴史を営む 南アフリカ・グリクワの人びとの〈うたうこと〉をめぐる民族誌』お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科学位論文(人文科学博士)。

2010 「『学校がコワイ』—ある『不登校』の事例にみる『子どもの情景』」、国際ワークショップ「広がる教育空間—子どもたちのウェルビーイングから考える」、於・国立民族学博物館

2010 “Doing Fieldwork Within: My child or a subject? Mother or an anthropologist?” Anthropology Southern Africa Annual Conference 2010, University of Fort Hare, East London.

Wilson, Monica.

1975 “...So Truth be in the Field...” The Alfred and Winifred Hoernlé Memorial Lecture, South African Institute of Race Relations, Pretoria.